

第1回伊東市新図書館基本構想策定委員会

前提条件の整理と課題

目次

1 現図書館等、現行サービス及び周辺地域の現状	1
1-1 伊東市の概要	1
1-2 関連計画等	4
1-3 現図書館等における現状	9
2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体との比較.....	16
2-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較	16
2-2 同規模自治体図書館との比較	16
2-3 静岡県内図書館との比較	17
3 敷地条件について	18
4 課題	19
5 図書館等最新事例	23
5-1 近年の図書館事例	23
5-2 ICT導入事例.....	24
5-3 サテライト事例.....	25
5-4 生涯学習施設との連携.....	25
5-5 新たな図書館サービス.....	26
5-6 その他施設等	26

前提条件の整理と課題

1 現図書館等、現行サービス及び周辺地域の現状

1-1 伊東市の概要

(1) 地勢

本市は、静岡県の最東端、伊豆半島の東に位置し、東は相模灘に面し、北は熱海市、西は伊豆の国市及び伊豆市、南は賀茂郡東伊豆町に接しています。市域は、東西 10.45 km、南北 20.45 km と南北に長く、面積は 124.10 km² で、市域の 44.7% が国立公園区域に指定されています。

全国有数の湧出量をもつ温泉地であり、伊東八景等の地域資源に恵まれ、これまで観光を基幹産業として発展してきました。また、大室山、小室山公園、一碧湖、城ヶ崎海岸、さくらの里といった自然資源のほか、美術館などの文化資源、東海館、木下杢太郎記念館、伊東東郷記念館等の歴史文化資源も多数あり、独自の文化が築かれています。



図 1-1 市役所から撮影した市街

(2) 人口

ア. 総人口の推移

本市の人口は昭和 55 年から平成 7 年までは総人口が増加傾向となっていたのに対し、平成 7 年以降は増減を繰り返し、平成 22 年以降は減少傾向が続いています。

平成 30 年 12 月末の住民基本台帳人口は 69,215 人で、平成 22 年度と比べ 6.3% 減少、世帯数は平成 22 年度以降横ばいで、平成 22 年度比で 1.9% 増となっています。

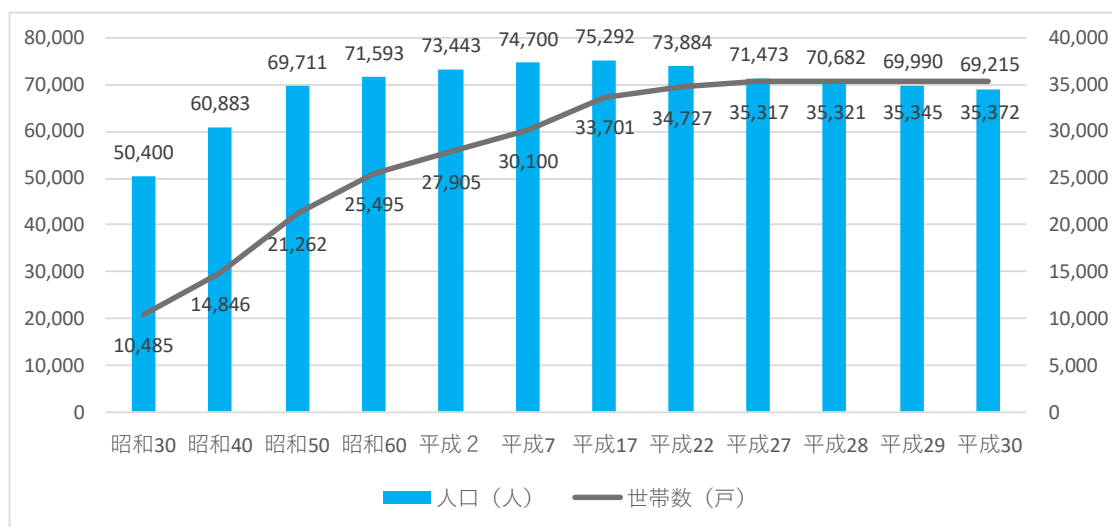


図 1-2 住民基本台帳人口の推移

今後も減少は続き、「伊東市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」において、将来展望人口は令和 42 年で 42,001 人と算出しています。

イ. 高齢化率

本市においても少子高齢化が進行しており、平成27年の国勢調査人口で算出した高齢化率は39.7%で、全国平均の26.7%を大きく上回っています。高齢化率は地域によって差が見られ、人口が少ない大字・町で高齢化率が高い傾向があります。

表 1-1 大字・町別の年代構成

大字・町名	人口総数		15歳未満 比率		15~64歳 比率		高齢化率 (65歳 以上)		平均 年齢	
	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	
宝町	31	47	0.0%	47	36.7%	46	63.3%	1	63	2
赤沢	728	18	2.3%	46	34.8%	47	63.0%	2	64	1
松原湯端町	165	43	7.4%	30	37.8%	45	54.7%	3	61	3
新井1~2丁目	836	16	6.1%	40	42.4%	43	51.6%	4	60	6
東松原町	239	37	4.2%	44	44.4%	37	51.5%	5	61	4
新井	87	46	4.7%	42	44.2%	38	51.2%	6	58	14
湯川	1,218	13	5.8%	41	43.6%	40	50.6%	7	60	7
猪戸	666	21	7.2%	31	42.4%	42	50.4%	8	59	10
静海町	254	32	4.4%	43	45.8%	33	49.8%	9	59	11
中央町	339	29	6.5%	36	43.8%	39	49.7%	10	60	5
幸町	184	40	9.2%	16	41.8%	44	48.9%	11	56	24
末広町	315	30	6.7%	35	45.2%	35	48.1%	12	58	12
八幡野	7,224	2	9.1%	17	42.9%	41	48.0%	13	57	19
銀座元町	242	35	6.8%	34	45.5%	34	47.7%	14	57	15
弥生町	217	38	6.5%	37	45.8%	32	47.7%	15	59	9
和田	550	22	6.1%	39	46.8%	28	47.1%	16	58	13
物見が丘	157	44	7.0%	32	45.9%	31	47.1%	17	59	8
岡広町	217	38	8.9%	18	44.6%	36	46.5%	18	56	21
富戸	6,161	4	8.1%	24	45.9%	29	46.0%	19	57	20
池	1,278	11	8.4%	21	45.9%	30	45.7%	20	56	22
桜ガ丘	417	26	6.4%	38	47.9%	24	45.6%	21	57	16
瓶山	363	27	4.1%	45	51.4%	13	44.5%	22	57	18
芝町	354	28	8.2%	23	47.4%	26	44.3%	23	55	28
湯川1~4丁目	1,000	14	8.4%	20	47.3%	27	44.3%	24	56	23
松原本町	251	34	8.0%	25	47.8%	25	44.2%	25	57	17
十足	1,379	10	7.5%	29	48.9%	21	43.6%	26	55	25
竹の台	166	42	7.9%	26	48.8%	22	43.3%	27	55	30
桜木町	546	23	9.7%	14	48.7%	23	41.6%	28	55	29
馬場町	679	20	9.7%	13	49.0%	20	41.3%	29	54	32
松原	860	15	7.6%	28	51.1%	16	41.3%	30	55	27
岡	3,288	8	7.8%	27	51.3%	14	40.9%	31	55	31
寿町	252	33	7.0%	33	52.3%	9	40.7%	32	54	33
松川町	114	45	8.8%	19	50.9%	18	40.4%	33	55	26
南町	511	24	8.2%	22	52.1%	10	39.6%	34	53	35
湯田町	295	31	9.7%	12	51.3%	15	39.0%	35	53	36
竹の内	729	17	10.3%	11	51.0%	17	38.8%	36	52	40
宮川町	441	25	11.6%	6	49.8%	19	38.6%	37	52	37
広野	695	19	9.5%	15	52.5%	6	38.0%	38	52	38
宇佐美	9,383	1	10.5%	9	51.5%	12	38.0%	39	52	39
音無町	240	36	10.5%	10	52.3%	8	37.2%	40	53	34
鎌田	2,186	9	11.3%	7	51.8%	11	36.9%	41	51	42
大原	1,244	12	10.6%	8	52.8%	5	36.6%	42	51	41
川奈	7,023	3	13.3%	2	52.3%	7	34.3%	43	49	44
渚町	172	41	12.9%	3	53.8%	4	33.3%	44	51	43
吉田	3,444	7	12.9%	4	54.3%	3	32.9%	45	49	45
荻	6,053	5	12.0%	5	56.9%	2	31.0%	46	49	46
玖須美元和田	5,152	6	14.1%	1	58.3%	1	27.6%	47	46	47
市全体	68,345	-	10.1%	-	50.2%	-	39.7%	-	53	-

※各項目の上位5地域を赤の太字・薄赤色背景で、下位5地域を緑の斜体太字・薄緑色背景で表示。各年代の比率は、総人口から年齢不詳の人口を除いて算出

ウ. 人口分布

地域別の人口密度は、中心市街地のほかに市南部の八幡野地区などが高い傾向にあります（図 1-3）。
学区別の児童数（図 1-4）も、同様の傾向があります。

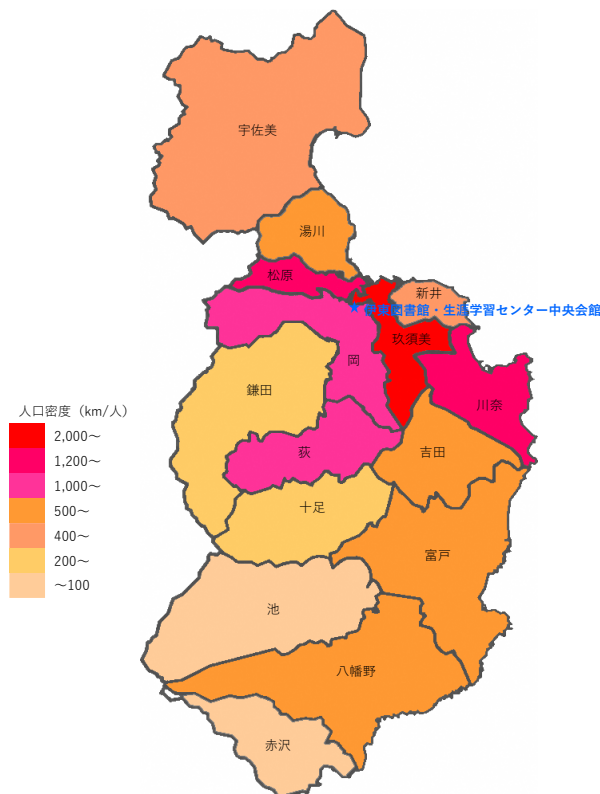


図 1-3 地区別人口密度

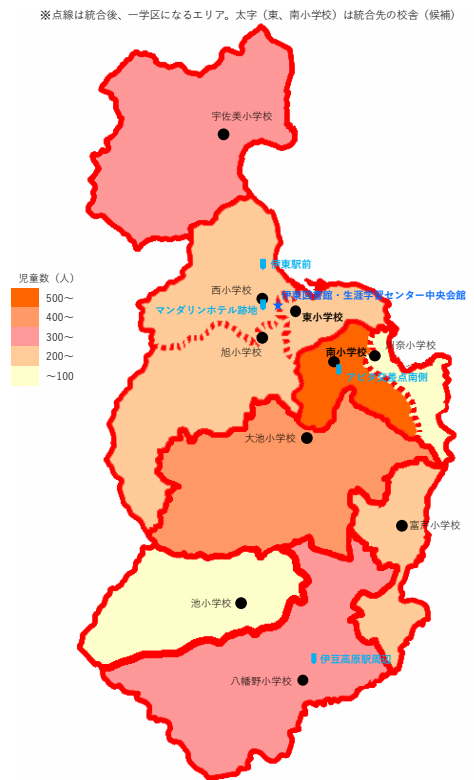


図 1-4 学区別児童数

(3) 産業・観光

平成 27 年の国勢調査では、第一次産業従事者は 2.6%である一方、第三次産業従事者は 80.3%を占めるなど、本市は観光産業を基幹産業とした産業形態をなしていることがわかります。

観光客数は、増加傾向にあり、特に宿泊者数は、増加傾向で推移しています。

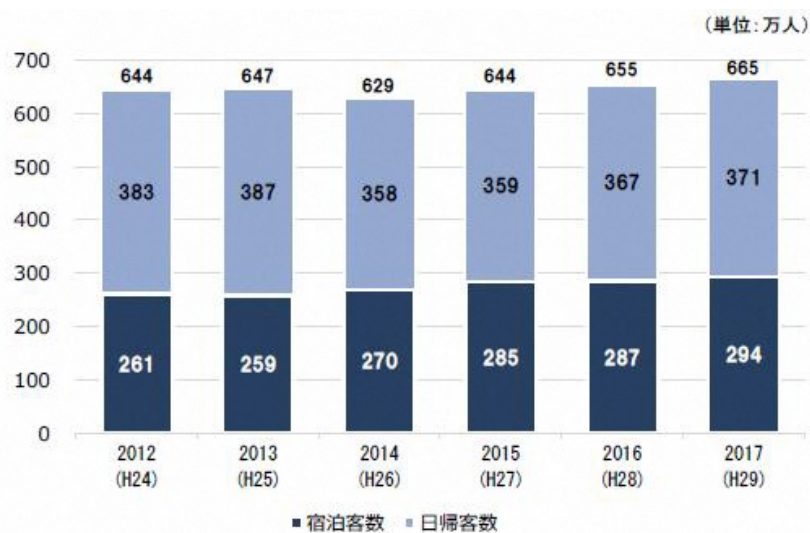


図 1-5 観光客数の推移

※第 3 次伊東市観光基本計画より

1-2 関連計画等

本市では、「第四次伊東市総合計画」「伊東市都市計画マスタープラン」等のまちづくりの基本となる計画を策定し、施策ごとに個別の計画を定めています。

伊東市新図書館基本構想（以下、「本構想」という）の策定にあたっては、目指す将来像やまちづくりの指針を踏まえて進める必要があります。この項では、関連する計画と図書館に関わる施策について整理します。

(1) 上位計画

ア. 第四次伊東市総合計画（平成 23 年 4 月策定）

▶ 計画の概要、位置づけ、目的など

第四次伊東市総合計画は、伊東市の将来像及びその実現の方向を示した政策大綱等からなる「基本構想」、前期・後期の各 5 年間で計画期間とした「基本計画」、基本計画の達成状況を毎年検証・再評価を行う「実施計画」で構成する、本市のまちづくりの指針となる計画で、令和 2 年度を目標年次としています。

同計画では、これからのまちづくりを進める上での基本理念を「自立と共生」「交流と連携」「参画と協働」とし、「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いとう」を将来像として目指すものです。



図 1-6 第四次伊東市総合計画の構成

なお、現在は令和 3 年度を始期とする第五次伊東市総合計画策定に向けて、未来ビジョン会議、地域タウンミーティング、高校生ワークショップ等を実施し、市民協働を推進しています。

▶ 伊東図書館、生涯学習センター中央会館（以下、「現図書館等」という）に関連する内容

第四次伊東市総合計画の後期基本計画である第十次基本計画の「政策目標 3 心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」において、生涯学習活動の推進に対する成果指標を下表のとおり定めています。

表 1-2 生涯学習活動の推進に対する成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状 (H22)	現状 (H27)	目標値 (H32)	目標値の考え方
市民 1 人当たりの生涯学習活動の参加回数	生涯学習センター及びコミュニティセンターで実施した生涯学習活動の年間参加者延べ人数/伊東市人口	2.09 回	2.23 回	3.12 回	参加者の 4 割増加を目指す。
市民 1 人当たり図書館貸出し冊数	移動図書館を含む市立図書館での年間の図書貸出し冊数	2.86 冊	3.10 冊	5.90 冊	5 年で現在の県内平均まで高めるよう設定

イ. 伊東市都市計画マスタープラン(第二次) (平成 25 年 3 月策定)

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

都市計画の基本的な方針を定める都市計画マスタープランは、平成 23 年 4 月の第四次伊東市総合計画や平成 23 年 3 月の静岡県が定める伊東国際観光温泉文化都市建設計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を踏まえ、平成 25 年 3 月に一部改定を行いました。おおむね 20 年後の将来像として、「自然と調和した健康保養都市」を全体構想の基本目標としています。

➤ 現図書館等に関連する内容

「第 3 章 都市施設基本計画」の中で、図書館には「施設水準の向上や利用しやすいサービスの充実」が求められています。

(2) まちづくり分野、その他関連計画

ア. 伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 (平成 27 年 10 月策定)

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

平成 26 年に公布の「まち・ひと・しごと創生法」、「まち・ひと・しごと創生に関する基本方針」を踏まえて、新たなまちづくりに踏み出していくための指針として策定。ずっと住みたいと思う環境づくりを推進し、長期的に若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取り組むことで出生率を上昇させ、令和 42 年に人口 42,000 人の確保を目指しています。

平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間を計画期間としていますが、伊東市総合計画との計画期間をそろえることにより、重要業績評価指標 (K P I) の適切な設定及び効果的な進捗管理を行うため 1 年間延長し、令和 2 年度までの 6 年間の計画期間に変更しました。下記の 4 つの基本目標は変更せず、K P I の目標値の変更を行っています。

◇ 総合戦略の 4 つの基本目標

1. 安定した雇用を創出する
2. 新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

➤ 現図書館等に関連する内容

「総合戦略」の中で図書館は、「情報拠点施設として、図書資料の充実やインターネット蔵書公開システムにより、市民の利便を図るとともに、新図書館の建設について、調査、研究を進めます。」とされ、図書館機能の充実を推進することとしています。

イ. 伊東市公共施設等総合管理計画 (平成 28 年 3 月策定 計画期間：平成 28 年度～令和 17 年度)

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

公共施設等を長期的な視点から効果的かつ効率的に活用し、運用していく視点を持つことが重要であることから、計画的、効率的に公共施設等の整備や維持管理を行い、施設の長寿命化や統廃合を進めることにより将来負担の軽減を図ることを目的として策定した計画です。

➤ 現図書館等に関連する内容

「4 章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」において、現図書館等については耐震設計となっていないことから新設を検討することとしています。

(3) 図書館の個別計画

ア. 第三次伊東市子ども読書活動推進計画（令和2年3月策定）

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

「第三次伊東市子ども読書活動推進計画」は、「子ども読書活動の推進に関する法律」第8条、第9条の規定に基づいて策定された「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「静岡県子ども読書活動推進計画第三次計画」を基本とした計画で、本市での読書活動の目指すべき姿を示すものです。

令和2年度から令和6年度までの5年間の計画期間としています。

◇ 基本方針

1. 子どもが読書の楽しさを知る機会の提供に努めます。
2. 読書環境の整備・充実に努めます。
3. 家庭、地域、学校、図書館等、関係機関の連携を強化します。
4. 子どもの読書活動の意義や重要性を啓発するとともに、普及するための広報活動に努めます。

表 1-3 伊東市子ども読書活動推進計画の努力目標

項目	平成25年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和6年度 (目標)
児童図書の蔵書冊数	40,558冊	46,828冊	50,000冊
児童図書の年間貸出冊数 (12歳以下の子ども 1人当たり)	10.3冊	8.1冊	12冊以上

➤ 現図書館等に関連する内容

市立図書館を情報拠点施設と位置付け、市立図書館を中心に、家庭、地域、学校等と連携を図り、子どもの読書活動を支援することとしています。具体的な施策は下記のとおりです。

◇ 読書環境の整備充実

子どもにとって豊富な蔵書から読みたい本を探し、読書の楽しみにつなげる場の創出、特別な支援を必要とする子どもの読書活動支援（録音図書、点字図書、難しい漢字や長文が無く読みやすい「バリアフリー図書」や外国語で書かれた本等の充実）、移動図書館「ともだち号」のサービスの拡充 など

◇ 児童サービスの強化

調べ学習の支援や本の紹介、イベントの実施、「ブックスタート事業」を継続するとともに、本事業未実施の乳児に対する参加を促す再通知や、健診時等での絵本の配付

◇ 連携協力体制の確立

広報誌やメール等による情報提供、静岡県子ども読書アドバイザーの派遣、ボランティアとの連携

(4) その他の指針等

ア. 図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性について（平成 30 年 3 月策定）

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

観光会館、観光会館別館及び生涯学習センター中央会館・伊東図書館において、老朽化、耐震性に課題があり、建替えや大規模修繕等の対応が必要となっていることから、図書館・文化ホールの建設について、4か所の建設候補地（伊東駅前、マンダリンホテル跡地、アピタ交差点南側、伊豆高原駅周辺）ごとに両施設の整備の方向性を整理したものです。

イ. 図書館・文化ホール建設に向けた検討会 図書館・文化ホール建設に向けた検討会中間報告

（令和元年 10 月）

➤ 計画の概要、位置づけ、目的など

「図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性」に基づき、建設候補地及び建設形態について検討を行う「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」を設置し、検討を行いました。

<検討経過>

- 平成 31 年 3 月 25 日市長へ以下 3 点の方向性を報告
 - ①建設形態については、図書館と文化ホールを別の場所に建設する
 - ②建設候補地については、市内小・中学校の適正配置及び県立高校の統廃合の方向性を見つつ、平成 31 年度も継続して検討する
 - ③検討にあたり、図書館の建設候補地案から検討を行い、その後、文化ホールの建設候補地案について検討を進める
- 令和元年 10 月 1 日開催の第 7 回検討会において、新図書館の建設地を「マンダリンホテル跡地」に選定

ウ、地域タウンミーティング、未来ビジョン会議

平成 30 年度に地域タウンミーティング、未来ビジョン会議にて、市民の皆様より図書館・文化ホール建設についてご意見を頂きました。

地域タウンミーティングは、全 15 地区 15 会場で行い、整備について多数のご意見を頂きました。

未来ビジョン会議とは、20 代～40 代を中心にしたメンバーにより、テーマに沿った協議・検討を行い、市長と直接意見交換等を行うものです。平成 30 年度の第 2 回・第 3 回・第 4 回会議において、「新しい図書館・文化ホール建設について考える」のテーマでグループワークを行い、新施設のコンセプト等の提案をいただきました。

<地域タウンミーティング、未来ビジョン会議等で頂いた主なご意見>

- 読書をしなくても誰もが行ってみたいと思う図書館
- 全世代が交流できる図書館
- 自然・郷土の文化財・温泉
- 子育て充実な図書館
- 生活向上や文化発展に結びつく、情報センターや学習の場にすべき
- 国際観光温泉文化都市にふさわしい図書館
- 花と海といで湯のまち伊東がイメージできる図書館
- 伊東というまちの生い立ち、歴史が理解できる図書館
- 中学・高校・大学と進学しても使いやすいと思える機能を
- 貸出等に係る電子化を
- 全体的にゆとりのある空間
- ミニシアターの併設
- 広い学習室
- 電子図書館
- ギャラリー
- カフェなどの飲食スペース
- 託児コーナー
- 庭を設け、四季折々の花、花木が楽しめる
- ジオ資料館、伊東にゆかりのある伊東祐親、アダムス、文人墨客等について学べる施設
- 観光客が伊東を理解できる伊東学コーナー
- シェアオフィス

1-3 現図書館等における現状

(1) 伊東市立図書館

ア. 概要

伊東市立図書館は、大正4年11月に伊東尋常高等小学校内に伊東町立図書館として開設、市制施行に伴って昭和23年11月に伊東市立図書館としてスタートしました。その後、昭和26年に桜木町の旧館（現在の伊東幼稚園本園）に移転、昭和55年11月に現在の敷地に社会教育センター及び市立図書館を新築し、以来40年にわたり現用館で運営を行っています。



図 1-7 伊東図書館・生涯学習センター中央会館外観

現在は、地上4階建ての建物で、1・2階部分が図書館です。施設全体の床面積2,713㎡のうち図書館は約954㎡で、1階部分は閉架書庫・移動図書館専用車庫・書庫で、2階は開架書架と閲覧スペースとし、108席の閲覧席を設置しています。

また、「郷土資料コーナー」には伊東市出身の文学者「木下杢太郎」に関する資料、「温泉」「火山」「地震」等の資料を重点的に収蔵しています。児童向けにも「伊東の昔話」、「民話集」など地域に伝わる伝承についての独自資料の収集を行っており、地域に根差した伊東市ならではの図書館サービスを行っています。

表 1-4 伊東図書館沿革（抜粋）

年月	項目
大正4年11月	伊東尋常高等小学校内に町立図書館を開設
昭和23年11月	伊東市立図書館となる
昭和53年12月	物見ヶ丘公園内に大原児童図書館を開館
昭和55年11月	社会教育センター及び市立図書館、新築・落成
昭和58年8月	移動図書館車「ともだち号」が巡回を開始
平成3年6月	出張読み聞かせ「おはなし宅急便」スタート
平成10年4月	図書館コンピュータシステム運用開始
平成15年10月	ブックスタート事業開始
平成22年10月	ホームページによる蔵書公開及び予約システムが稼働 利用者用インターネット閲覧パソコン設置
平成27年3月	伊東市子ども読書活動推進計画－第二次計画－策定
平成27年11月	図書館開設100周年記念事業講演会開催
平成28年8月	館内Wi-Fiの導入



図 1-8 伊東図書館2階フロア図

表 1-5 施設概要

開館：昭和 55 年 11 月 1 日 所在地：伊東市音無町 5 番 14 号 複合施設：伊東市生涯学習センター中央会館 構造：鉄筋コンクリート造 4 階建（1・2 階が図書館） 面積：2,712.80 m ² （うち図書館専用床面積：953.98 m ² ） 図書館施設：1 階閉架書庫、移動図書館専用車庫と書庫 2 階開架書架、閲覧スペース 閲覧席：108 席 蔵書検索用コンピュータ端末：2 台 インターネット閲覧用パソコン：1 台 音声・拡大読書機「よむべえ」：1 台
--

イ. 利用について

伊東図書館の開館時間は午前 9 時 30 分～午後 6 時で、月曜日・祝日および年末年始と館内整理日、蔵書点検期間を休館日としています。

貸出冊数は 1 人あたり本 8 冊と視聴覚資料 2 点まで、2 週間以内です。

表 1-6 利用案内概要

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 6 時 00 分 休館日：① 月曜日 ② 祝日 ③ 年末年始（12月29日～1月3日） ④ 月末館内整理日（月の最終日：その日が土曜日・日曜日又は上記休館日に当る場合はその前日） ⑤ 蔵書点検期間 貸出冊数・期間：1 人（1 カード） 本 8 冊と視聴覚資料 2 点までで 2 週間以内 利用者登録できる方：伊東市に住民登録のある方 伊東市に勤務・通学している方 伊東市に別荘等を所有している方 熱海市・沼津市・伊豆市・東伊町に住民登録があり図書館利用者カードをお持ちの方
--

ウ. 蔵書数（移動図書館及び大原児童図書館は除く）

平成 31 年 4 月 1 日現在の図書館（本館）の所蔵構成は、図書資料 174,451 点、視聴覚資料 3,391 点、雑誌 12,278 点の合計 190,120 点です。

図書資料のうち、一般書は 72.5% で児童書は 21.2% (37,047 点)、郷土資料は 5.6% (9,717 点) を占めます。

一般書では、文学が 40.9% と一番割合が多く、次いで自然社会、歴史の分野を多く所蔵しています。

児童書の内訳は児童書 65.1%、絵本 33.2%、紙芝居 1.7% です。

郷土資料は、静岡県、伊東市に関する資料のほか、伊東市出身で文学者である「木下壱太郎」に関する資料、伊東市の自然に深く関わる「温泉」に関連する資料を重点的に収蔵しています。

視聴覚資料は CD・DVD を重点的に収集し、充実に努めています。

雑誌は 87 タイトル、新聞は 8 紙を購読しています。

表 1-7 伊東図書館所蔵構成

分類	所蔵数	構成比
一般	126,438	72.5%
総記	7,993	(6.3%)
哲学	5,130	(4.1%)
歴史	12,668	(10.0%)
社会科学	19,297	(15.3%)
自然科学	8,474	(6.7%)
技術	6,543	(5.2%)
産業	3,808	(3.0%)
芸術	8,888	(7.0%)
言語	1,935	(1.5%)
文学	51,702	(40.9%)
児童書	37,047	21.2%
児童書	24,119	(65.1%)
絵本	12,287	(33.2%)
紙芝居	641	(1.7%)
郷土資料	9,717	5.6%
洋書	684	0.4%
点字本	201	0.1%
大活字本	364	0.2%
小計	174,451	100.0%
視聴覚資料	3,391	-
雑誌	12,278	-
合計	190,120	-

エ. 利用状況

貸出数、登録者数、予約数、レファレンス件数の平成 26 年度、平成 30 年度の実績は右表のとおりです。

貸出数は減少傾向にあり、平成 30 年度は平成 26 年度の 93.6% となっています。平成 30 年度の年代別貸出数は、小学生以下が 14.8%、中高生が 2.1% で、中高生の利用が少ない傾向にあります。

登録者数は増加傾向にあり、web 予約登録者は、平成 30 年度は平成 26 年度より 1.6 倍に増加しましたが、年度内の実利用人数は平成 26 年度に比べ 7% 減少しています。

平成 30 年度の予約件数は合計 15,464 件で、半数以上の 53.4% が web からの予約です。

レファレンス件数は 26 年度に比べ 2 倍に伸びています。

表 1-8 利用状況

		平成26年度	平成30年度	26年度との比較
貸出数	貸出数合計	186,847	174,860	93.6%
	小学生以下 (構成率)	27,125 (14.5%)	25,846 (14.8%)	95.3%
	中高生 (構成率)	3,243 (1.7%)	3,738 (2.1%)	115.3%
	一般 (構成率)	156,479 (83.7%)	145,276 (83.1%)	92.8%
登録者数	登録者数	29,706	33,728	113.5%
	新規登録者	1,163	1,075	92.4%
	web予約登録者	1,030	1,664	161.6%
	年度内利用実人数	6,488	6,031	93.0%
予約数	予約数合計	10,405	15,464	148.6%
	窓口予約 (構成率)	5,426 (52.1%)	6,964 (45.0%)	128.3%
	館内利用者端末 (構成率)	-	244 (1.6%)	-
	Web予約 (構成率)	4,979 (47.9%)	8,256 (53.4%)	165.8%
レファレンス件数		3,890	7,968	204.8%

オ. 各種イベントや催事の実施状況（平成 30 年度）

➤ ブックスタート

7～9 か月児を対象に読み聞かせを行うほか、絵本 2 冊を手渡しています。平成 30 年度は対象者 294 名に対し、234 名（対象者の 79.6%）に実施しました。

➤ 読み聞かせ

学校、幼稚園、福祉施設等への定期的な出張読み聞かせ「おはなしともだち号」のほか、「土曜おはなし会」として毎週土曜日午前中にボランティアによる読み聞かせを行っています。

また、春・夏・冬に大型絵本や大型紙芝居などの読み聞かせを行う「おはなし会」も開催しています。

表 1-9 読み聞かせ実施回数・参加人数

	実施回数	参加人数 (延べ)	1回あたり 人数
出張読み聞かせ	73回	2,222人	30.4
土曜おはなし会	44回	329人	7.5
はるのおはなし会	1回	55人	-
なつのおはなし会	1回	53人	-
ふゆのおはなし会	1回	64人	-

➤ こどもの読書週間・読書週間事業

平成 30 年度は、子どもの読書週間に合わせて、絵本作家のいわいとしお氏によるワークショップ「くもさんののりものをつくろう！」を実施し、138 人と多くの参加者を集めました。

また、読書週間には絵本作家のきむらゆういち氏の講演会を開催しました。

➤ その他児童向けの行事

「ぬいぐるみの図書館おとまり会」（2 回）、めいろづくりやクリスマスリースづくりなどのワークショップを開催しています。

このほかにも、学校のテスト期間や夏休みに合わせ、中央会館 3 階会議室を学習室として開放しています。

➤ 特集コーナー

一般、児童それぞれに特集コーナーを設けて資料の紹介を行っているほか、移動図書館でも年 5 回実施しています。

➤ 障がい者サービス

大活字本、点字付き絵本を定期的に購入し、資料の充実を図っています。

また、音声拡大読書機「よむべえ」を設置し、視覚障害者の読書支援を行っています。

カ. 市全体のサービス

➤ 大原児童図書館

昭和 53 年、物見が丘公園内に開館しました。児童書を中心に、6,000 点の資料を所蔵しています。

開館日は毎週火・木・土曜日の午後 3 時～午後 5 時です。



図 1-9 大原児童図書館

➤ 移動図書館ともだち号

昭和 58 年に運行を開始し、現在、市立小学校等を中心に市内 21 か所のステーションを月 2 回巡回しています。（図 1-11）



図 1-10 移動図書館ともだち号

1	芝原公園
2	大池小学校
3	元ナガヤ川奈店駐車場
4	宇佐美小学校
5	川奈小学校
6	伊豆急伊豆高原管理事務所
7	東小学校
8	生涯学習センター萩会館
9	ゆうゆうの里
10	伊豆高原十字の園
11	富戸小学校
12	南小学校
13	吉田公園
14	旭小学校
15	イトーピア管理事務所
16	大室高原自治会館
17	八幡野小学校
18	生涯学習センター池会館
19	角折住宅
20	城平住宅
21	鎌田公園

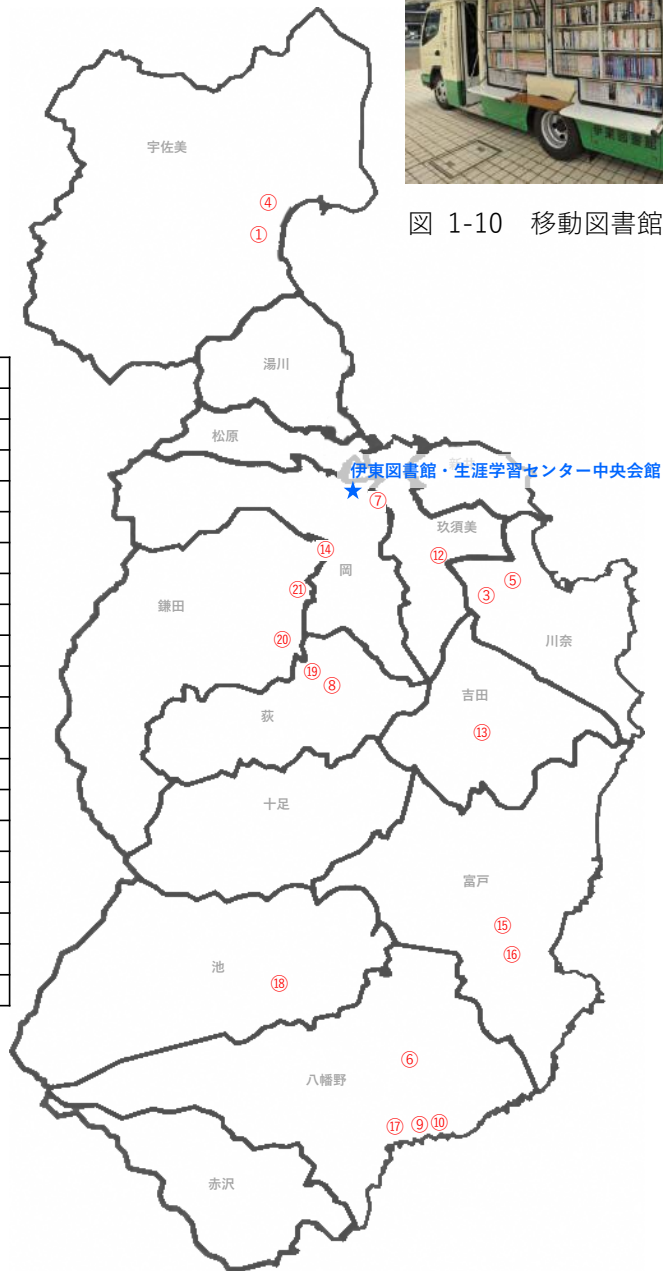


図 1-11 ともだち号ステーション一覧

(2) 生涯学習センター中央会館

ア. 概要

生涯学習センター中央会館は、複合施設3・4階部分に位置し、各種会議室や研修室、視聴覚室、トレーニング室を備えた延床面積1,520㎡の施設です。

趣味講座や教養講座、学級教室などの各種講座の開催、学習に関する相談、資料及び情報提供、サークル活動への支援など、市民の学習、文化活動に関するさまざまな支援を行っています。

活発な活動が行われていますが、下図のとおり、利用者数は、平成26年の40,653人に比べ、5年間で74.1%まで減少して平成30年度は30,136人となり、利用率は図書館よりもさらに減少傾向にあります。

平成30年度の利用者内訳は、生涯学習関係団体が67.9%を占めており、次いで教育委員会主催事業が24.9%となっています。

時間帯別利用状況は、午前32.9%、午後37.6%、夜間29.5%であり、時間帯に偏りはありません。

表 1-10 生涯学習センター中央会館諸室収容人数

階	部屋名	収容人数 広さ
4階	第1会議室	100人
	第2会議室	30人
	第1研修室	30人
	第2研修室	20人
	美術工芸室	30人
3階	第1和室	6畳+8畳
	第2和室	10畳
	視聴覚室	50人
	展示兼トレーニング室	40人

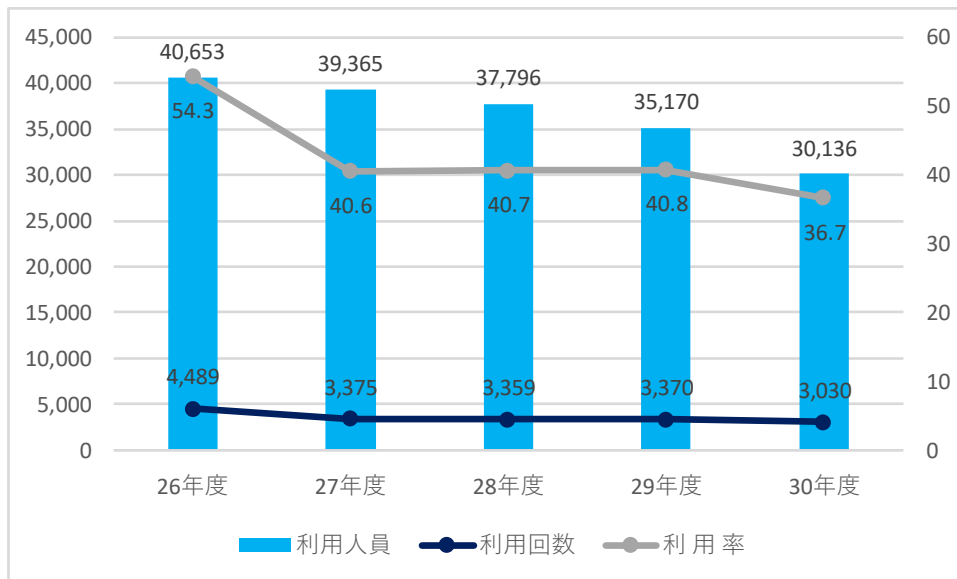


図 1-12 生涯学習センター中央会館利用統計推移

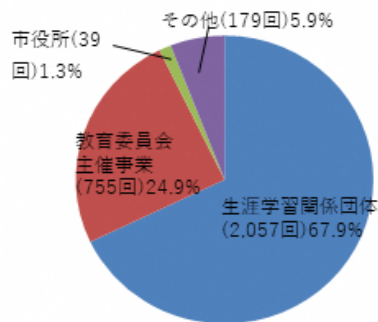


図 1-14 平成30年度団体別利用回数

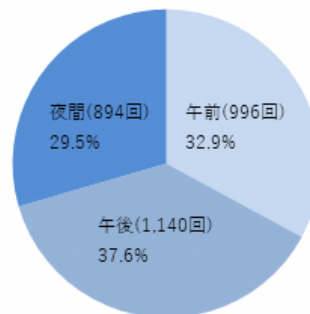


図 1-13 平成30年度時間帯別利用回数

イ. 成人教育事業

生涯学習センター中央会館を拠点として、様々な学習要望に応じた機会を提供するための事業を行っています。

その中でも、昭和 56 年度から開設している市民大学講座は、講座修了者のアンケートから希望の講座を把握し、次回以降の講座の企画に取り入れるほか、市民の生涯学習ニーズに応えられる内容を取り入れるよう努めています。平成 30 年は全 3 回から 8 回の 10 講座、計 58 回を開催し、出席率は 8 講座で 90%を超えました。

表 1-11 平成 30 年度成人教育事業一覧

事業名	参加者数	内容
市民大学講座	10講座132人	教養、趣味、実技等の講座
家庭教育学級	26学級568人	講演、一般教養（児童の父母対象）
楽しく学ぶ子育て講座	25人	子育てに関する講話、一般教養（父母対象）
いでゆ大学	55人	趣味教養の充実、仲間づくり

(3) 施設

現図書館は、高い書架が多く並び、柱と書架の幅が極めて狭い箇所もあり、バリアフリーの対応も充分ではありません。

また、特徴的な取組である「木下柰太郎コーナー」や「温泉コーナー」が配架される郷土資料室は施設の一番奥に位置し、床面積も小さいため、市民の認知度が低く、利用しづらい状況となっています。

さらに図書館と生涯学習センター中央会館の入口は建物の構造上、やや暗い印象があり、それぞれの入口も分かれているため、お互いの利用者が完全に分離し、回遊性による新たな利用が生まれにくい状況になっています。



図 1-15 現図書館等入口

(4) 駐車場

駐車場 22 台、仮設駐車場 56 台の計 78 台の駐車スペースを備えています。

施設西側の駐車場はややいびつな形状で、台数も少ないことから、新図書館建設予定地であるマンダリンホテル跡地に仮設駐車場を設置しています。

仮設駐車場は図書館、中央会館、ひぐらし会館の共用で、ホールを備えるひぐらし会館での事業開催時にはかなりの台数が駐車することもあります。また、現図書館等より 400mほど離れているため、利用しやすいとは言い難い状況にあります。



図 1-16 駐車場

2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体との比較

2-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）」（以下、「望ましい基準」という。）の延床面積、蔵書冊数、貸出数等との比較では、下表のとおりいずれの値も「望ましい基準」を下回っています。1㎡あたりの冊数は 193.6 冊と基準の 93.5 冊を大きく上回り、館内は非常に窮屈な状態にあります。

表 2-1 「望ましい基準」との比較

	人口	延床面積	蔵書冊数	うち開架	開架率	1㎡あたり 冊数	貸出数	図書館数
伊東市立図書館	69,597	954	184,728	67,930	36.8%	193.6	199,234	1.0
図書館の望ましい基準 ~8万人	67,946	4,097	382,926	248,215	64.8%	93.5	819,141	3.5
基準との差	1,651	▲ 3,143	▲ 198,198	▲ 180,285	▲ 28.0pt	100.2	▲ 619,907	▲ 3

※ 伊東市の人口は平成 30 年 3 月末（外国人含む）、蔵書冊数（図書資料数）・貸出数は平成 29 年度実績

※ 「望ましい基準」数値目標は「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2018」（JLA 図書館調査事業委員会）、人口は各人口段階の対象市町村における平均人口、数値は「日本の図書館 2018」による

2-2 同規模自治体図書館との比較

本市と同規模自治体（7 万人前後）13 市の図書館と比較した結果は下表のとおりです。

施設の延床面積、図書館予算額ともに最も低く、その他蔵書冊数、登録者数、貸出数とも平均を大きく下回り、現状では市の規模に対して、十分な施設規模ではないと考えられます。

表 2-2 同規模自治体図書館との比較

都道府県名	図書館名	延床面積		奉仕人口		蔵書冊数		人口 1人あたり 蔵書冊数		1㎡あたり 蔵書冊数		うち 開架図書		開架率		登録者数		登録率		貸出数		人口 1人あたり 貸出数		予算額 図書館費 (千円)		人口 1人あたり 図書館費 予算(千円)	
		順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	
静岡県	伊東市立伊東図書館	954	14	70,682	7	184,728	11	2.61	11	193.6	14	67,930	36.8%	11	35,659	50.4%	8	205,879	12	2.91	12	25,523	14	0.36	14		
愛知県	碧南市民図書館	4,327	2	72,082	1	425,922	1	5.91	2	98.4	9	194,391	45.6%	9	50,892	70.6%	6	352,709	9	4.89	9	31,297	13	0.43	13		
千葉県	八街市立図書館	2,072	9	72,006	2	315,996	5	4.39	6	152.5	12	0	0.0%	14	23,629	32.8%	12	282,801	10	3.93	10	39,887	12	0.55	12		
福岡県	太宰府市民図書館	1,485	12	71,915	3	221,785	8	3.08	8	149.4	11	70,111	31.6%	12	24,912	34.6%	11	478,775	3	6.66	4	74,568	5	1.04	6		
埼玉県	吉川市立図書館	2,271	8	71,584	4	423,078	2	5.91	1	186.3	13	265,622	62.8%	4	42,848	59.9%	7	487,982	2	6.82	3	126,597	2	1.77	2		
愛知県	知立市図書館	2,477	7	71,323	5	218,920	9	3.07	9	88.4	6	97,704	44.6%	10	58,107	81.5%	5	407,172	7	5.71	7	69,189	8	0.97	8		
大阪府	柏原市立柏原図書館	1,387	13	70,698	6	132,541	13	1.87	13	95.6	8	72,848	55.0%	5	31,195	44.1%	10	218,571	11	3.09	11	61,930	10	0.88	10		
宮城県	栗原市立図書館	1,809	11	70,530	8	125,749	14	1.78	14	69.5	2	86,245	68.6%	2	22,846	32.4%	13	115,878	14	1.64	14	65,647	9	0.93	9		
山梨県	笛吹市石和図書館	1,887	10	70,421	9	152,462	12	2.17	12	80.8	4	40,632	26.7%	13	78,626	111.7%	2	159,917	13	2.27	13	52,288	11	0.74	11		
埼玉県	鶴ヶ島市立中央図書館	4,255	3	70,061	10	366,657	3	5.23	3	86.2	5	179,422	48.9%	7	105,930	151.2%	1	595,674	1	8.50	1	72,367	6	1.03	7		
北海道	恵庭市立図書館	2,801	6	69,227	11	211,041	10	3.05	10	75.3	3	115,848	54.9%	6	33,386	48.2%	9	476,100	4	6.88	2	127,969	1	1.85	1		
福井県	鯖江市図書館	5,603	1	69,135	12	340,499	4	4.93	4	60.8	1	219,709	64.5%	3	65,038	94.1%	3	364,206	8	5.27	8	98,098	3	1.42	3		
長野県	伊那市立伊那図書館	3,025	4	69,059	13	306,257	6	4.43	5	101.3	10	229,541	75.0%	1	58,391	84.6%	4	445,084	5	6.44	5	81,826	4	1.18	4		
愛知県	豊明市立図書館	2,923	5	68,869	14	275,506	7	4.00	7	94.2	7	127,407	46.2%	8	20,936	30.4%	14	435,462	6	6.32	6	71,743	7	1.04	5		
	平均	2,794		70,532		270,493		3.84		103.0		130,729	48.0%		47,441	67.4%		370,795		5.26		74,877		1.06			

※ データ出所：日本の図書館 2018 を基に作成

※ 順位について、最上位を青字、最下位を赤字とした

2-3 静岡県内図書館との比較

静岡県内の図書館と比較すると、下表のとおり、「1人当の資料費」、「1,000人当の蔵書冊数、受入冊数、貸出冊数」等の値がかなり低い傾向にあります。

表 2-3 静岡県内図書館との比較

1人当資料費決算額 (見込) (円)		1,000人当所蔵資料 (冊)		1,000人当受入資料 (冊)		1,000人当貸出冊数 (冊)		専任職員1人当奉仕人 口 (人)	
御前崎市	815	御前崎市	8,524	御前崎市	337	御前崎市	11,060	熱海市	4,606
三島市	345	伊豆市	5,871	富士宮市	184	掛川市	7,566	御前崎市	5,424
熱海市	302	掛川市	5,431	富士市	159	富士市	7,213	島田市	6,570
島田市	290	熱海市	4,665	島田市	158	磐田市	7,135	三島市	6,873
富士市	282	下田市	4,575	袋井市	157	富士宮市	6,997	磐田市	8,082
藤枝市	281	裾野市	4,521	藤枝市	148	三島市	6,892	富士宮市	8,843
袋井市	277	湖西市	4,518	掛川市	147	湖西市	6,718	掛川市	9,075
富士宮市	261	磐田市	4,455	三島市	145	藤枝市	6,644	湖西市	9,940
平均	243	富士市	4,317	伊豆市	141	袋井市	5,960	伊豆市	10,226
静岡市	235	三島市	4,310	磐田市	133	島田市	5,905	裾野市	10,341
伊豆市	227	島田市	4,279	湖西市	131	静岡市	5,887	焼津市	11,633
湖西市	226	富士宮市	4,126	平均	125	御殿場市	5,831	伊豆の国市	12,172
磐田市	219	平均	4,034	静岡市	113	浜松市	5,389	藤枝市	13,176
裾野市	218	藤枝市	3,968	裾野市	112	裾野市	5,012	伊東市	13,772
焼津市	215	伊豆の国市	3,885	熱海市	103	焼津市	4,973	平均	13,794
掛川市	206	袋井市	3,558	焼津市	99	伊豆市	4,366	沼津市	13,931
伊豆の国市	185	静岡市	3,226	菊川市	88	沼津市	4,274	静岡市	13,999
沼津市	185	御殿場市	3,110	下田市	86	伊豆の国市	3,601	富士市	14,078
菊川市	165	浜松市	3,000	沼津市	79	菊川市	3,189	菊川市	16,106
下田市	159	沼津市	2,897	牧之原市	76	熱海市	2,926	浜松市	17,838
浜松市	143	伊東市	2,683	浜松市	75	伊東市	2,893	下田市	21,492
伊東市	140	焼津市	2,632	伊東市	74	下田市	2,223	袋井市	22,055
御殿場市	135	菊川市	2,601	伊豆の国市	74	牧之原市	1,547	牧之原市	22,909
牧之原市	73	牧之原市	1,625	御殿場市	64			御殿場市	44,129

※データ出所：平成30年度静岡県立図書館の統計を基に作成

3 敷地条件について

新図書館の建設予定地は 4029.88 m²、住所は桜木町二丁目 672 番 4 号、マンダリンホテルの跡地です。伊東駅から直線距離で約 1.1 km、南伊東駅から約 0.85 km の距離にあり、最も近いバス停は建設予定地から約 200m の距離にある「伊東郵便局」（伊豆東海バス）で、伊東駅を発着する 10 路線のバス（ピーク時である 7 時、8 時、17 時台には伊東駅方面に 3 本以上）が停車します。

また、近隣には健康福祉センター、生涯学習センターひぐらし会館があります。

現状は更地ですが、伊東図書館、生涯学習センター中央会館、生涯学習センターひぐらし会館の仮設駐車場として利用されており、特にホールを備えるひぐらし会館での事業開催時にはかなりの台数が駐車することがあります。

また本地は津波浸水想定地域（0.3m～2m）、洪水浸水想定地域（1.0m～5.0m）に位置しています。

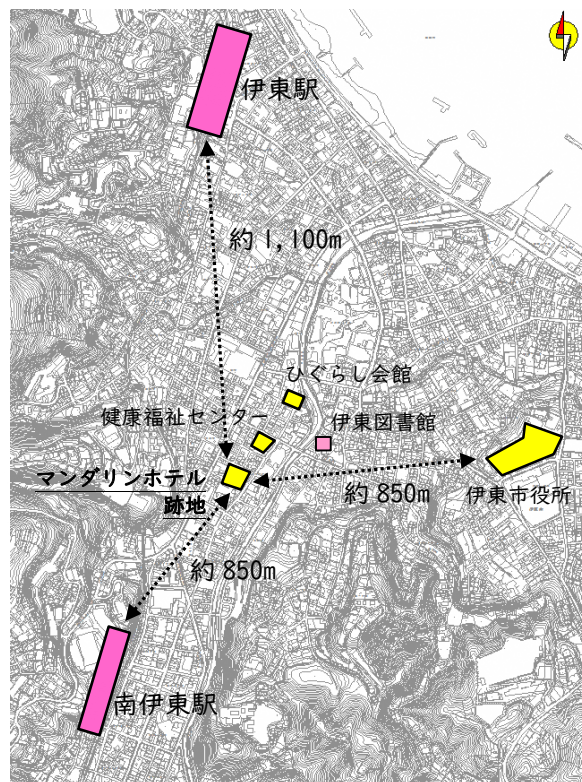


図 3-1 建設予定地周辺の公共施設等の位置関係

表 3-1 建設予定地の概要

建設予定地の地番	伊東市桜木町二丁目 672 番 4 ほか 10 筆	
建設予定地の施設規模	敷地面積	約 4029.88 m ²
	用途地域等による制限	近隣商業地域
		建ぺい率 80%
		容積率 300%
		第 3 種高度地区
		準防火地域
日影規制なし		



図 3-2 建設予定地

4 課題

「1 現図書館等、現行サービス及び周辺地域の現状」～「3 敷地条件」の内容を以下のようにまとめます。

表 4-1 現状整理まとめ

項目		内容
1 現図書館等、現行サービス及び周辺地域の現状		
1-1 伊東市の概要	地域特性	多くの自然資源、歴史文化資源を持ち、独自の文化が築かれている 観光を基幹産業として発展
	人口	人口は平成22年頃より減少傾向 高齢化率は39.7%と全国平均の26.6%を大きく上回る 地域別の人口密度は、中心市街地のほかに市南部が高い
	産業	第一次産業従事者は2.6%、第三次産業従事者は80.3%を占める 観光客数は、増加傾向にあり、特に宿泊者数は、毎年順調に増加傾向で推移
1-2 関連計画等	第四次伊東市総合計画	「ずっと住みたい また来たい健康保養都市 伊とう」 市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数：3.12回（令和2年度目標値） 市民1人当たりの図書貸出し数：5.90冊（令和2年度目標値）
	伊東市都市計画マスタープラン(第二次)	施設水準の向上や利用しやすいサービスの充実
	伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略	ずっと住みたいと思う環境づくりを目指すとともに、長期的に若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取組み、出生率を上昇させ、令和42年に人口42,000人の確保を目指す 情報拠点施設として、図書資料の充実やインターネット蔵書公開システムにより、市民の利便を図るとともに、新図書館の建設について、調査、研究を進める
	伊東市公共施設等総合管理計画	耐震設計となっていないことから新設を検討
	伊東市子ども読書活動推進計画第二次計画	子どもが読書の楽しさを知る機会の提供に努める 読書環境の整備・充実に努める 家庭、地域、学校、図書館等、関係機関の連携を強化する 子どもの読書活動の意義や重要性を啓発、普及するため、広報活動に努める 12歳以下の子ども1人当たり児童図書の蔵書冊数：7冊以上（令和元年度目標値） 12歳以下の子ども1人当たり児童図書の年間貸出冊数：12冊以上（令和元年度目標値）
	地域タウンミーティング、未来ビジョン会議における意見	読書をしなくても誰もが行ってみたいと思う図書館 全世代が交流できる図書館 自然・郷土の文化財・温泉 子育て充実な図書館 生活向上や文化発展に結びつく、情報センターや学習の場にすべき 国際観光温泉文化都市にふさわしい図書館 花と海という湯のまち伊東がイメージできる図書館 伊東というまちの生い立ち、歴史が理解できる図書館 中学・高校・大学と進学しても使いやすいと思える機能を 貸出等に係る電子化を 全体的にゆとりのある空間 ミニシアターの併設 広い学習室 電子図書館 ギャラリー カフェなどの飲食スペース 託児コーナー 庭を設け、四季折々の花、花木が楽しめる ジオ資料館、伊東にゆかりのある伊東祐親、アダムス、文人墨客等について学べる施設 観光客が伊東を理解できる伊東学コーナー シェアオフィス

表 4-1 は次ページにつづく

項目		内容
1-3 現図書館等における現状	図書館	昭和55年開館、築40年を迎える 蔵書数190,120点（図書資料174,451点、視聴覚資料3,391点、雑誌12,278点） 貸出数は減少傾向、平成26年度比93.6% 年代別貸出数は、小学生以下が14.8%、中学生が2.1%。中学生の利用が少ない傾向 登録者数は増加傾向 予約件数は合計15,464件、半数以上の53.4%がwebからの予約 レファレンス件数は26年度に比べ2倍 読み聞かせなど児童向け事業を中心に実施 「郷土資料コーナー」に「木下杢太郎」「温泉」「火山」「地震」等の資料を重点的に収蔵 児童向けにも「伊東の昔話」、「民話集」など地域に伝わる伝承についての独自資料を収集 大原児童図書館は火・木・土の午後3時～午後5時のみ開館 ともだち号は市内21か所のステーションを月2回巡回
	生涯学習センター中央会館	各種会議室や研修室、視聴覚室、トレーニング室を備える 利用人員は、5年間で74.1%減少。平成30年度は30,136人 市民大学講座など、生涯学習講座を開催
	施設	高い書架が多く並び、柱と書架の幅が極めて狭い箇所もあり、バリアフリーの対応が不十分 郷土資料室は施設の一番奥に位置し、床面積も小さいため、市民の認知度が低く、利用しづらい状況 伊東図書館と生涯学習センター中央会館の入口は建物の構造上、やや暗い印象 入口が分かれているため、お互いの利用者が完全に分離し、回遊性による新たな利用が生まれにくい状況
	駐車場	台数が少なくややいびつな形状
	2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体との比較	
	2-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較	延床面積、蔵書冊数、貸出数いずれの値も「望ましい基準」を下回る 1㎡あたりの冊数は基準を大きく上回り、館内は非常に窮屈な状態
	2-2 同規模自治体図書館との比較	いずれの値も平均を大きく下回る
	2-3 静岡県内図書館との比較	「1人当りの資料費」「1,000人当りの蔵書冊数、受入冊数、貸出冊数」が低い
	3 敷地条件について	
	敷地条件	マンダリンホテルの跡地 伊東駅から約1.5km、南伊東駅から約1km、伊東郵便局バス停から約200mの距離 近隣には健康福祉センター、生涯学習センターひぐらし会館がある 現状は更地だが伊東図書館、生涯学習センター中央会館、生涯学習センターひぐらし会館の仮設駐車場となっている 津波浸水想定地域（0.3m～2m）、洪水浸水想定地域（1.0m～5.0m）

このまとめを踏まえ、現図書館等の課題を「①伊東市全体の図書館サービス」、「②サービス面」、「③蔵書面」、「④施設面」、「⑤敷地面」、「⑥ICT等最新サービス」の観点から整理し、抽出します。

今後、課題の解消あるいは拡充のための方策を一つ一つ検討し、この後に検討するコンセプトやサービス内容、施設規模等々がそれを解決するものとなっているかチェックを行いながら、検討を進める必要があります。

① 伊東市全体の図書館サービス

- 市内地域別の人口密度を踏まえると、新図書館建設が予定されるマンダリンホテル跡地は中心市街地として整備が必要なことは必然ですが、人口密度の高い玖須美・川奈地区や、南部の伊豆高原駅周辺（八幡野地域）についても、市民への図書館サービス拡充の検討の余地があります。
- 「移動図書館ともだち号」の年間巡回回数は20回程度と少ない状況です。21ステーションのうち、8ステーションは小学校であることから、学校支援としての機能を維持しつつも、他地域についてのサービスの拡充方法の検討が望まれます。
- 「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」（令和元年8月伊東市教育委員会）や市内児童数の分布図を踏まえると、南小学校区・大池小学校区・八幡野小学校区などにおいて、未来の伊東市を支える小中学生が気軽に読書あるいは伊東市の歴史や文化に触れる施設等が必要であると考えられます。子どもたちの郷土愛（シビックプライド）の醸成を育み、本市の発展に寄与する人材の成長が期待されます。

上記のような観点から、まず初めに市内図書館サービス全域について検討し、その上で本館の役割を整理し、方向性を決めていく必要があると考えられます。

② サービス面

- 利用減を解消するサービスの検討が必要です。
- 新規登録を増やすための周知等の方策の検討が望まれます。
- 利用の少ない中高生に魅力を感じてもらえる事業の検討が望まれます。
- 伊東市の歴史、文化などの魅力発信について、さらなる拡充を図るサービスの検討が望まれます。
- 映画会や大規模イベント等の事業開催の拡充と、そのためのスペースの確保が必要と考えられます。
- これまで図書館に訪れなかった方々の来館を促すために交流スペース（カフェ等）等の設置を検討する必要があります。
- 伊東市総合計画が目指す「健康保養都市」を支援するサービスも検討する必要があります。

③ 蔵書面

- 同規模自治体の平均が約27万冊（開架約13万冊、閉架約14万冊）、「望ましい基準」では約38万冊（開架約25万冊、閉架約13万冊）であることから、少なくとも同規模自治体平均の27万冊以上の蔵書数を確保する必要があると考えられます。
- 利用の少ない中高生の利用が見込める蔵書の構築を検討する必要があります。
- 郷土資料室には木下空太郎関連書籍、温泉にまつわる書籍、あるいは伊東市の文化・歴史に関する書籍を収集しています。今後は伊東市の文化・歴史・観光等さらに内容を深めた特色ある蔵書とサービスの拡充とデジタル技術なども利用し、多くの方々に活用される方策の検討が望まれます。
- 伊東市の昔話、伊東の民話集など地域に伝わる伝承についての独自資料も多数そろえており、これらは地域における知や文化を収集する図書館の本来の意義から考えても非常に価値のあるものと思われます。このような資料の拡充あるいは利活用（上記、ICTも活用した）が望まれます。

④ 施設面

- 施設の老朽化、バリアフリーの観点から、現代の社会情勢に照らし合わせた施設の検討が必要です。
 - 現状の施設は入口が暗く、分かりづらく、また生涯学習センターの入口とも分かれているため、お互いの利用者が分かれています。開かれた入りやすく、かつ、様々な方が訪れやすい施設とすることが望まれます。
 - 同規模自治体図書館の面積の平均は2,794㎡であり、「望ましい基準」では4,097㎡です。また、生涯学習センター機能（現在約1,520㎡）に加え、検討会、地域タウンミーティング、未来ビジョン会議において意見が出されたこれまでに無かったその他機能を実現できる施設規模を検討する必要があると考えられます。
 - 閲覧室には25席+αの学習席がありますが、曜日・時間帯によっては学生たちで満席となります。このような利用も踏まえた学習席の拡充が望まれます。
 - 生涯学習センターと融合し、回遊性の実現される施設であることが望まれます。
 - エントランス部などに、人々が憩い、集まるためのラウンジ機能のあるスペースが望まれます。
- 上記を踏まえながら、今後、決定する蔵書数やサービス内容を実現できる施設規模が望まれます。

⑤ 敷地面

- 現在の建設予定地は津波浸水想定地域（0.3m～2m）、洪水浸水想定地域（1.0m～5.0m）であるため、貴重な資料などを浸水させない方策の検討が必要です。
 - 未来ビジョン会議などで広場の活用という声もあることから、敷地内に広場を設置するなどの検討も望まれます。
 - 駐車場については、今後、増加が見込まれる利用状況や、建設予定地の仮設駐車場が事業開催時に多く利用されていることなどを考慮に入れて規模を設定していく必要があります。
- また、設置にあたっては、らせん状で、車両がすれ違うための通路幅が十分に確保されていない形状の場合、使いづらいことが想定されるため、平地式あるいはゆとりのある立体式やその併用が望まれます。

⑥ ICT等最新サービス

- 生涯学習センター機能との融合化や回遊性を考えた場合、ICTシステムの導入による資料管理が大きな効果を発揮すると考えられ、導入の検討が望まれます。
- デジタルアーカイブ導入による貴重資料の公開や観光情報の発信、ファブスペースの設置等々が検討されます。

⑦ 新型コロナウイルス感染症等への対応

- 新型コロナウイルス感染症等の流行に伴い、図書館でも一部サービスの制限を行いました。このような事態に面した際、滞りなく市民へ図書館サービスを提供し続けるためにも、電子書籍の貸出やデジタルアーカイブといった非来館型のサービスを導入・提供し、来館・非来館のどちらでサービスを受けるか利用者が選択できるようにすることや、施設面でも人々が密集しすぎない空間づくりを行うなどの検討を行うことが望まれます。

5 図書館等最新事例

構想の参考となる他自治体の図書館の先進的事例、そして今後の新たなサービスや市内全体のサービス拡充を鑑み ICT 導入事例やサテライト図書館事例、また本施設は図書館単体ではなく生涯学習センターとの併設であることから、図書館と生涯学習施設との連携事例、そして図書館にこだわらない注目すべき市民サービスを行う施設について、「近年の図書館事例」、「ICT 導入事例」、「サテライト図書館事例」、「生涯学習施設との連携事例」、「それ以外の新たな図書館サービス」、「その他施設等」の6点にまとめ下記に示します。

5-1 近年の図書館事例

ホール×生涯学習×こども広場×カフェ×図書館

(神奈川県大和市)

大和市文化創造拠点シリウス 2016年11月OPEN

子どもから大人まで、芸術文化や生涯学習の素晴らしさ、新しい知識・人々との心弾む出会いを届け、市民の心に一体感を生み出す場として誕生したシリウス。

中核を成すのは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場であり、それらが「複合」ではなく「融合」しています。

健康関連の書籍1万冊、健康相談・講座と健康をテーマとした図書館です。また、それぞれの施設に書棚を設置することで、施設全体が図書館であるというイメージを創出するほか、全体が融合した事業を行っており、年間300万人の来館者があります。



市民活動×ティーンズ×カフェ×公園×図書館

(東京都武蔵野市)

ひと・まち・情報 創造館武蔵野プレイス 2011年7月OPEN

図書館、生涯学習活動支援、市民活動支援、青少年活動支援の4つの機能が複合した公共施設です。施設前面の「境南ふれあい広場公園」は、武蔵野市唯一の駅前商業地域に位置する市立公園です。

地下2階のティーンズスタジオには、ポルダリングウォールや卓球台が設置されたオープンスタジオもあり、若者たちにぎわっています。

また公園でも絵本や紙芝居のよみかかせを実施する「青空おはなし会」を行うほか、2011年から行っている施設の総合イベント「プレイスフェスタ」では、ワークショップ、講演会、ライブイベントを館内で、公園ではコミュニティマーケットを開催するなど、施設の4つの機能と公園という「場」の活用により、多様で異なる活動の出会いや交流を促し、地域のにぎわい創出に貢献しています。



ホール×レストラン×カフェ×ミュージアム×図書館

(東京都千代田区)

日比谷図書文化館 2013年11月OPEN

従来の図書館機能にとどまらず、地域の文化プラットフォームとして、年100回近く行われる文化講座「日比谷カレッジ」、ミュージアムを使った文化的な展覧会、4階の特別研究室で行われる参加型セミナー、それらと連動した書籍の展示等様々な事業展開を行っています。

有志によって、カフェやレストランで行われる「図書館ちゃんぶる」といった事業（貸出手続せずに館内であれば資料を持ち歩くことが出来る）も話題の他、2014年には日比谷地域の再開発にあたって行われた「リマッピング日比谷プロジェクト」と協働し、所蔵するアート関連の資料の他、絵本の原画、アート作品等の展示を開催し、まちぐるみで行われた「アート」（日比谷地域のテーマ）と連動した取組を行うことにより、図書館単体では取り込めない客層を獲得する他、大学・学生とのコラボレーション等も行なわれ、地域のコミュニティの中心となる事業を行っています。

※画像出典：日比谷図書文化館HP



ICT（24時間受取）×図書館（愛知県安城市）
安城市図書情報館 2017年6月OPEN

図書情報館の入る本館、スーパーマーケットやカルチャースクール等の商業施設が入る南館、立体駐車場の3棟からなり、その他には公園と広場が設置されています。

ICで管理し、24時間予約本を受取可能なシステムを国内で初導入する他、大型のディスプレイを設置し、子どもの動きに反応して画像を変化させることで、子どもが画面の中

にいるような体験の出来る環境を提供したり、自動貸出機・返却機、読書通帳等様々なICT機器が導入されています。
 ※画像出典：アンフォーレ HP



本を貸さない？×図書館（北海道札幌市）
札幌市図書・情報館 2018年10月OPEN

「課題解決型図書館」にコンセプトを絞った、貸出をしない図書館です。延床面積約1,500㎡に図書資料約4万冊と決して多くはない所蔵冊数ではあるものの、貸出を行わないことで、常に資料が館内にある状態を保ち、利用者が館内で資料を閲覧し、調査研究を行える滞在型図書館を実現しています。 ※画像出典：札幌図書・情報館 HP



郷土資料室×図書館（東京都昭島市）
アキシマエンス（昭島市民図書館） 2020年6月OPEN

「つなぐ・広がる・見つける・育む」をコンセプトとした市民の交流の場と課題解決を支援する、知の拠点です。廃校になった小学校敷地に、小学校校舎をリノベーションした校舎棟（教育センター、子ども家庭支援センター男女共同参画センター等が入居）、体育館、新設の国際交流教養文化棟には市民図書館、郷土資料室があります。さまざまな機能・施設を集

約することで教育と福祉が一体となった継続的な支援を行うことを可能としています。

図書館は、グループ学習室や、個人ブース、静寂読書席などさまざまな形態の閲覧席を用意しています。

また郷土資料室にはAKISHIMA VISONという大型のサイネージを設置し、まちの歴史やスポットについてのデジタル情報を閲覧することが出来ます。 ※画像出典：昭島市 HP



こども×図書館（大阪府大阪市）
大阪市子ども本の森中之島 2020年7月OPEN

「建築家の安藤忠雄氏が設計、建設し、市に寄贈した施設（図書館法上の図書館ではありません）であり、「子どもたちの素直なまなざしと感受性を大切にする「物語」の聖地をつくる。」をコンセプトに絵本を中心に幼年童話、児童文学、小説、図鑑、自然科学書、芸術書等様々な児童書を揃えます。

子どもたちの興味喚起をうながす新しい手法で、書架と資料配置をデザインし、原則、館外貸出はしませんが、隣接する中之島公園への持ち出しは可能としています（職員が携帯するICリーダライタでその場で処理）。

アートディレクターを起用することで、館内サイン、HPデザイン、ロゴ等あらゆるデザインコンセプトを統一しています。 ※画像出典：大阪市 HP

5-2 ICT導入事例



IC タグシステム

ICタグを資料に貼付し、「セルフ貸出機」、「セルフ返却機（返却仕分け機）」、「セルフ予約受取棚」を導入することで、図書館における貸出・返却業務の完全セルフ化が図られ、利用者の利便性の向上と、職員コストの削減が実現します。また、ICゲートにより大幅な防犯対策も向上します。ICタグを貼付することで、後述する様々なサービス展開が検討されます。



24時間予約受取

ICタグを貼付した資料を格納し、無人で管理する予約受取システムです。閉館後もアクセスできる場所に設置することで、利用者は24時間予約資料の受取が出来ます。

モデル規模：7段×5間口/収容冊数：1,006冊（大124冊、小882冊）/本体寸法：1,300W×2,685H×6,995L（mm）/平均床荷重：300kg/㎡



デジタルアーカイブ

民間企業と東京大学史料編纂所との産学連携によって構築したアーカイブシステム「ADEAC」は高精度画像と、フルテキスト化機能、そして自治体を横断しての検索を行うことができます。地域資料をデジタル化し、アーカイブ化の上、公開することができるほか、自治体史をフルテキスト化し、さらに関連する各部署が持つ資料等もデジタル化することで、それぞれを本文内のキーワードで紐づけ、自治体内の一大アーカイブを構築することができます



電子図書館

全国で広がりつつある電子図書館ですが、平成 28 年度施行の障害者差別解消法以降は視覚障害を持つ方に対して、電子図書館の読み上げ機能を活用することで、資料のバリアフリー化を図る動きも増えています。

5-3 サテライト図書館事例



駅ビル×図書館窓口（東京都世田谷区）

世田谷区立図書館カウンター二子玉川 2015 年 4 月 OPEN

図書館カウンターは予約受取と返却のみを行う施設です。狭小スペースでも設置が出来、駅などに設置することで利便性が高まります。

二子玉川駅商業ビル「ライズ」に図書館カウンターを設置後、開館後 1 か月で図書館共通カードの登録者数が約 1,600 人、既存の図書館が閉館する 20 時～21 時の利用者が大幅増。区内福祉施設の生産品販売もしています。

5-4 生涯学習施設との連携

大和市シリウス（神奈川県大和市）

生涯学習センターは講演室、会議室（大中小計 7 室）のほか、調理実習実、スタジオからなります。「健康都市大学」では専門家だけでなく市民が講師となる「市民でつくる健康学部」講座も実施しています。2 階市民交流ラウンジは有料スペースとなっており、打ち合わせやセカンドオフィスとして利用できます。



玉野市立図書館・公民館（岡山県玉野市）

図書館と融合した公民館は多目的室、研修室、ギャラリー、料理実習室、実習室、和室等からなり、図書館開架スペースを囲むように配置されています。諸室はガラス越しの設えとなり、それぞれの利用・活動状況が見え、複施設としての一体感を生みます。「たまのミュージアム」はいしいひさいち氏など玉野市出身の著名人の作品などを展示紹介しています。 ※画像出典：玉野市立図書館・公民館

5-5 新たな図書館サービス



ファブスペース

ファブスペースは3Dプリンターや3Dスキャナーなどのデジタル工作機器を配し、誰もがモノづくりを行える施設です。デジタル工作機器は、人々が生活する上で必要なものの、製品化されていないものや、全く新たな発想による製品を自らの手で作成することができる、人々の課題を解決する新たなツールです。WEBやスマートフォンが普及したように、今後さらなる普及が期待されています。

これらデジタル工作機器の発達により、20世紀の文明が「読み書き」を身につけることで発展し、それを支えるために一つのまちに一つの図書館が建てられたのと同様、ファブスペースによる「モノづくり」がこれからの人々のリテラシーとなりうるものと考えられています。

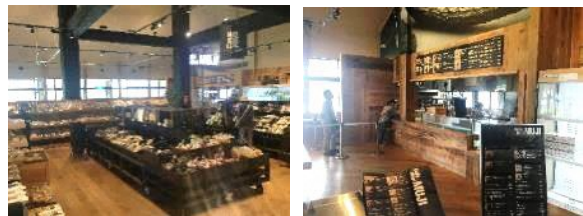
そしてモノづくりを行う上で少なからず訪れる試行錯誤を解決するためには、人類がこれまで集積してきた「知」が必要不可欠であり、この「知」を集積する図書館と連携されることは非常に望ましい形であると考えられています。

また、作成物はデジタルデータとして共有することが出来るため、インターネットとデジタル工作機器さえあれば、誰かの課題を解決したツールが、ほかの多くの人々の課題を解決するものにもなります。このデジタルデータを通じて、地域、国内のみならず世界の人々とのコミュニティが生まれえる新たなコミュニケーションのツールとしても機能することが期待されます。

日比谷音楽祭（東京都千代田区）

日比谷公園（大音楽堂、草地広場、小音楽堂、第二花壇、にれのき広場、噴水広場）、日比谷図書文化館 大ホール/小ホール）を使った、音楽をテーマとしたフリーイベントです。2日間で11万人の来場者がありました。公園、その他施設と地域、そして図書館の連携事業として、開催されました。

5-6 その他施設等



みんなみの里（千葉県鴨川市）

鴨川市みんなみの里は良品計画が指定管理者として鴨川市の道の駅を改修し、マルシェ、カフェ、ショップ、開発工房を備えた地域活性化を図る施設です。

「開発工房」では未利用・低利用の農産資源を活用し、地域農産物の価値を上げることを目的としており、活用しきれていない農産資源を持つ生産者や6次化加工に興味を持つ人々と、良品計画の持つネットワークをマッチングすることによって、連携や協業、事業創出につながることを目指しています。

そこから生まれる鴨川の新たな地域銘品の紹介、販売を通じ、地域の魅力を発信していく場となっています。

多賀・長浜の子ども公園（静岡県熱海市）

2017年に子ども向け大型遊具を設置、海の遊び場をイメージしてデザインされています。また、無料の足湯などもあり、子ども連れの方々の新たなスポットとなっています。